

自序

現在、日本國民にとつて最も重要且つ切實な問題は依然として支那問題である。

支那事變は大東亞戦争が起ると同時に、その中へ包含されて終つたけれども、その實體は今
日なほ未解決のまゝ残されてゐるのである。そして大東亞戦争を完遂するといふことは支那事
變を徹底的に解決することであり、支那事變を解決しない限り大東亞戦争は決して有終の美を
濟すことは出来ないのである。

支那事變が起つてから足掛け六年になるのであるが、何故今日に至るも解決されずに残され
てゐるのであるか。日本國民は、その理由について深い省察を加へなければならぬ。

支那事變を速かに解決するためには、先づ支那事變が起つてから滿四ヶ年餘を經過した今日
支那が如何なる状態に在るかを知ることが何よりも肝要であると思ふ。支那の現状について正
しく深い認識を持たない限り、支那事變解決の最有効の方策を發見し眞劍に努力することが出
来ないからである。所が日本國民中には今日でも支那の状態について知る所が少ない人が素外

に多いのではないかと思はれるのである。私は最近でも色々な人から、支那は現在どんな状態になつてゐるのであらうかといった質問を受けてゐるし、支那の現状を知るのに困惑を感じてゐるらしい人々を澤山に見受けるのである。それで私は、これ等の人々の参考に応じようと思つて本書を撰述したのである。

實は私は兩三年來、幾度か支那の現状を説明する書の撰述を、知人や友人から勧められてゐるのであるが私はその都度斷つて來てゐる。誰に見られても羞しくない立派な書物を書き上げ得る自信が全く無かつたからである。私が支那問題の研究を始めたのは大正三年からであつたから今年で足掛け二十八年になる。それで私は支那の問題なら何んでも一通りは心得てゐる積りでゐるのであるが、よく考へて見ると、私のもつてゐる知識は極めて散漫で、纏つたものは何一つ擱んでゐないのである。纏つたものを擱んでゐなくて、よい書物が書ける道理が無い。それで今日まで誰の勧めにも應じなかつたのである、が今回思ひ切つて本書を書いた。といつても何も急に私に自信が出來たためでは決してない。この間、ある友人から「お前は二十年も三十年も支那のことはかり研究して來てゐるが一體何のためなのか、今こそお前の持つてゐる知識や研究の結果を同胞に知らせ役立たせる時ではないか、そしてそれがお前の職域奉公な

のだ」と責められたので終に意を決し勇を鼓して、本書の筆を執つた譯である、だから自信が無いことに於ては今日も昨日と少しも變りがないのである。

本書の目的は、支那が現在どんな状態にあるかを説明するのにあるので、議論や理屈は一切抜きにし、文章は出来るだけ平易に、説明は判り易くしようと努めた。また日本國民として是非知つて置かねばならぬと思はれる事柄は出来るだけ多く取り上げた積りでゐる。

たゞ私の知識が貧弱、調査研究が不十分なのと一日も早くと原稿を急いだために思ふやうに行かなかつた、残念であるが致し方無い。

しかし本書のやうなものでも支那の現状を知る上に多少の参考にはなるだらうと思つてゐる。

なほ、本書で「現在」といふのは昭和十七年二月の前後のことである。支那事變が起つて以來、支那のあらゆるものが寸時も停止することなく絶えず變動し、刻々に變貌してゐるので、書物の上で現在といふ文字を使ふのは無理なのであるが、他に適當の文字が見當らなかつたので、無理と知りつゝ使つた次第である。だから本書が書店の片隅へ姿を現はす時には、私の書いたことは凡て過去の物語となつて終つてゐるかも知れない、がこれは致し方ないと諦める。

讀者諸賢も諒とされたい。

本書の執筆に當つて、説明の完璧を期するため、長友波多野乾一先生の著書をはじめ、色々な方の著書を参考にした。著者と著書の名を一々擧げないが、深厚なる謝意を表する次第である。

昭和十七年二月十日

下連雀の草廬にて

松本鎗吉

目次

三つの掌史

三つの掌史

一、國民黨掌史	五
---------	---

興中會の誕生→國共第一次合作成立

【附記】

三民主義とは何か	七
----------	---

國民黨の全盛時代	四〇
----------	----

國民黨の會議の略稱	四四
-----------	----

二、中國共產黨掌史	四八
-----------	----

誕生→國共第一次合作成立

【附記】

赤魔の巨魁——毛澤東……………六五

三、抗日運動學史……………六六

第二辰丸事件と滿洲事變以後

【附記】

抗日運動の特徴と分類……………七七

民衆の抗日意識に就いて……………七九

支那事變の經過と處理の回顧

支那事變の經過と處理の回顧

一、事變の經過と重要日誌……………七八

二、事變處理の回顧……………一〇一

事件不擴大方針——暴支膺懲方針——國民政府を相手とせず——新政權の誕生——
東亞の新秩序建設——汪兆銘重慶脱出——中央政權の樹立——大東亞共榮圈建設へ——

日米貿易の開始——會商の經過——交渉決裂——開戦——大東亞戰爭と停戦

和平支那の出現まで

和平支那の出現まで……………一三〇

序説——三つの新政權——蒙古聯合自治政府——中華民國臨時政府——中華民國
維新政府——新中央政府の樹立へ——法統を繼承——國民黨の南京歸還——純正
國民黨の成立——中央政治會議を開催——新國民政府の成立

一、國民政府努力の跡……………一五九

國民政府の地聲——環境と一般の空氣——成長は困難視——努力の跡

二、日本政府の援助……………一七〇

帝國の具體策——援助を聲明——援助の經過

【附記】

日支基本條約と三國共同宣言……………一八六

清鄉工作……………二〇一

政府機構改革の意義 三

和平支那と抗日支那

二つの支那 三

一、和平支那 三

イ、國民政府直轄地區(中支那と廣東) 三

地域と面積並に人口―國民政府の機構と陣容―國際的立場―財政狀態―通貨
狀況(新法幣・舊法幣・電票)―軍事勢力―教育再建狀況―文化狀況―交通と
産業開發(中支振興株式會社と子會社)―邦人進出狀況―中南支の左翼邦人

純正國民黨 三

新國民運動を展開―現在の中央委員―東亞聯盟運動

國民政府の發育狀態に就いて 三

局部和平と全面和平 三

民衆の生活狀況に就いて 三

和平地區民衆生活安定の要諦

ロ、北支那地區 三

北支那とは―農業と資源―冀察政務委員會の消滅―京津に治安維持會成立―
北京臨時政府の成立―華北政務委員會―委員會の性格―中國聯合準備銀行―
經濟産業開發の狀況―北支那開發株式會社―融資會社と投資會社―邦人の進
出狀況

新民會の活躍 三

ハ、蒙疆地區 三

蒙疆地區の範圍―人種と人口―地下資源―農業と畜産

蒙古聯合自治政府 三

組織大綱―施政綱領―組織と陣容―憲法

南京國民政府との關係

政府機構を改革―政府の現陣容―通貨狀況―財政狀態―交通狀況―通信狀況―

教育狀態―最近情況―邦人進出狀況

二、抗日支那	三六
地域と面積・人口―政權の繩張―抗日支那の内情	
イ、蔣介石政權	三五
國防最高委員會―各戰區と兵力―國民政府(組織と陣容)	
重慶國民黨の内幕	三六
重慶政權の懷具合	三五
抗戰豫算―公債の發行―外國借款―紙幣の増發―華僑の送金	
抗日教育の狀況	三六
高等教育―中等教育―國民教育―社會教育―慘憺たる實情―教育部長陳立夫とその教育政策	
經濟産業の開發狀況	三五
交通の建設―工業の建設―農業開發	
民衆の苦悶	四〇
第二次合作後の國民黨	四五

四、中國共產黨地區	四二
中共地區の範圍―政治機構と陣容―各種建設工作の概況―經濟工作の内幕―	
中共の兵力―コミンテルンとの關係―恐るべき存在	
第二次合作後の國共兩黨關係	四九
新四軍の問題―兩黨相視の經過	
抗戰繼續が出来た理由	四七

大東亞戰爭と支那

大東亞戰爭と支那	四九
日本の態度は不變	四九
對重慶軍事作戰を繼續	
支那民衆への影響	四二
南京國民政府の措置	四五
抗日支那の動き	四七

重慶政權は狼狽し日獨伊に宣戰を布告し中共、抗戰態度を表明し蔣、軍民に告ぐる書を發表し緊急行政院會議を開催し抗戰計畫建直しに狂奔

【附記】

大東亞戦争と在支米英の權益…………… 四四

日本軍當局の措置し重慶側へも打撃し日本軍當局の聲明と布告